

阿南一中 新校舎へ引越し

昨年4月に着工した阿南第一中学校校舎棟改築工事（第1期工事）が3月11日に完成し、3月22日に引越しを行いました。

第1期工事では、一般教室や特別支援教室など17室からなる普通教室棟（3階建）と、音楽室や理科室など8室を備えた特別教室棟（3階建）を整備。広めの廊下と大きな窓が特徴的で、照明設備に調光センサーを取り付けるなど省電力化を実現しています。また、トイレの排水には雨水を利用するなど、地球環境に配慮した工夫がなされています。

生徒会会長の薄田直弥さん（3年・柳島町）は、「ヒカヒカの床が気に入っています。授業中の雰囲気も明るくなりました。」と、満足そうに話していました。



ゆったりとした廊下と大きな窓が特徴の普通教室棟。

橋防災公園登り口に設置されている誘導灯。



災害時の避難誘導に役立てて 誘導灯31基を市へ寄付

市内の建設業者で組織する阿南建設業協同組合から、災害時における市民の避難誘導に役立ててほしいと、3月23日、自ら開発・製造した「ひまわり型誘導灯」31基を市へ寄付していただきました。

ひまわりに見立てた高さ2・5mの誘導灯は、阪神大震災の支援・復旧にあたった建設業者がボランティア活動の経験をもとに開発・製造されました。すでに、市指定の避難所31箇所を設置されており、夜間は、太陽光発電システムによるLEDライトが表示板を照らし、平常時は、通学路の防犯や事故防止に効果を発揮しています。迅速かつ安全な避難を促す目印になるとともに、市民の防災意識の向上にもつながります。

定住自立圏形成協定を締結

昨年3月に「中心市宣言」を行った阿南市と、この宣言に賛同した那賀町、美波町との間で3月24日、「定住自立圏形成協定」を締結しました。これにより、相互に役割分担して、定住に必要な都市機能や生活機能を確保・充実させ、圏域への人の流れを創出するために定住自立圏を形成していくことをめざします。

連携する具体的内容は

- ① 医療・福祉・教育など5項目からなる生活機能の強化
- ② 地域公共交通・道路等の交通インフラの整備など7項目からなる結びつきやネットワークの強化
- ③ 圏域内における人材の育成など2項目による圏域マネジメント能力の強化です。

今後、「圏域共生ビジョン懇談会」を立ち上げて具体的取組について検討していきます。



坂口博文那賀町長（左）と影治信良美波町長（右）と手を組む岩浅市長。